

令和6年度 第3回刈谷市子ども・若者支援地域協議会議事録

日 時	令和7年1月28日（火） 10時～11時40分
場 所	刈谷市役所 701会議室
出席者	委 員 18名（欠席3名） 事務局 4名

1 議題

（1）令和6年度子ども・若者支援の実績報告について

子ども・若者総合相談窓口、子ども・若者の居場所の状況について、事務局及び委員より説明。

【主な意見・質問等】

- ・今年度初めて相談に来たという人もいれば継続して長く相談している人もいると思うが、全体として、何年くらい相談を行っていくと終結につながるというような手応えや感触というようなものはあるか。
- 令和2年9月の開設当初から相談に来ている方も数名いる。長く相談を継続しているケースでも毎月定期的に足を運んでいただき、相談を繰り返していく中で少しずつ力をつけていっているのを感じる。最も相談を長く行っているケースでは当事者の問題がひと段落したら兄弟姉妹の問題が出てくるなど、状況が変わりながら新たな問題が見つかったりすることもある。相談の中で状況の変化をしっかりと拾い、保護者へのフィードバックやこちらからの働きかけをするようにしているため、1つのケースで2年、3年はかかってくると思いながら相談を行っている。

（2）刈谷市こども計画について

昨年12月から1月にかけて行われたパブリックコメントにおいて公開された計画案の中から子ども・若者支援に関わる部分を抜粋し事務局より説明。

【主な意見・質問等】

- ・総合相談窓口は概ね中学校卒業後からの相談が主眼になるが、その一方で計画案に出てくるような愛着の課題や、親子関係の難しさという課題が引き継がれていき、中学校卒業後や成人期の中で生きづらさとして表れているということがある。そうした意味では子育てから始まり若者の社会的自立や自己実現というところまでひとまとめにして計画にしていたことは意義があることなのではないかと思う。
- ・貧困や障害、ヤングケアラー等、子どもの自立を支えることが果たしづらくなってしまう状況は、ますます子ども・若者を社会から遠ざけると思われる。そのような実情を、ぜひ学齢期以降の子ども・若者支援と一体になって議論ができるといい。
- ・子どもが学校を卒業した後に相談場所を探すというよりは、在学中から色々な人に相談ができるということや、地域にはこんな窓口、居場所があるということを知ってもらい相談につなげることが大切である。自分から相談することや居場所に行くことは思春期の子どもの場合ハードルが高いが、自習する、勉強しに行くという形で居場所というものに馴染んでもらうと、学校の先生や友達以外の人と喋りたいという子どものニーズを拾っていくこともできるのではないかと思う。
- ・計画案を網羅的に見ていくと、子ども・若者支援につながる項目もたくさんあるため、こうしたものを手元に置きながら協議会の協議を進めていければと思う。

(3) 情報交換

ケース事例を委員より説明し、支援方法について意見交換を行った。

【主な意見等】

- ・当事者やその家族の安心安全がどこにあるのかを考える必要がある。
- ・生きづらさや困難の発端は幼少期から始まっているため、ライフステージを通じた切れ目のない理解や支援が必要だと考えるきっかけになる。

2 その他

事務局より、3月に卒業を迎える市内中学校卒業生に対して、相談機関や相談場所を掲載したチラシを各中学校を通じて配布することを説明。